

毛越寺常行堂

二十日夜祭

1月20日、伝統の毛越寺常行堂二十日夜祭が開かれ、五穀豊穣、無病息災などが祈願されました。二十日夜祭は常行堂にまつられる農作物の神「摩多羅神」の祭礼。

大寒の寒空の下、午後7時半に約300人の献膳行列が、たいまつを先頭にJR平泉駅前を出発。境内に到着すると、下帯姿の厄年男衆らが勇ましい掛け声とともに燃え盛るたいまつをぶつけ合う火たきのぼりを披露しました。常行堂前では手にすると福が来るという蘇民袋の争奪戦も行われ、境内は男衆の熱気に包まれていました。



①



③



②

① 毛越寺常行堂／② JR平泉駅前を出発する献膳行列一行／③ 鬼子を背負い常行堂を目指す／④ 境内には太鼓やほら貝の音とともに厄年男衆の勇ましい掛け声が響く／⑤ 吐く息も白く、震えるような寒さの中、町内を練り歩く／⑥ 厄年男衆のたいまつが重なり、毛越寺の大泉が池を取り巻くように炎が燃え上がった



⑤



④



⑥



⑦

⑦ 笑顔を見せる厄年男衆／⑧ 燃え盛るたいまつをぶつけ合い火の粉を散らす／⑨ 白熱する蘇民袋の争奪が繰り広げられ、男衆の雄叫びが響いた／⑩ 毛越寺二十日夜祭の角川／⑪ 蘇民袋の取り主となった鳥畑義紘さん(13区) (右から4人目)／⑫ 雪の白さとたいまつのみりにより幻想的な世界の毛越寺



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫